

2025年度(令和7年度)事業報告

児童養護施設 山家学園

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

- ① 施設入所事業 定員 24 名
- ② 子育て支援短期利用事業 定員 6 名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

- ① 由布市要支援児童等見守り強化事業
- ② 由布市ファミリーサポートセンター事業
- ③ 自立生活支援事業(施設機能強化推進費)

(3) 地域における公益的な取組

- ① 蛇口神社清掃活動
- ② 地域住民との合同防災訓練
- ③ 地域住民としての区の活動 公民館活動の参加

(4) 運営方針

家庭養育優先原則・パーマネンシー保障の理念の中、代替養育となる児童養護施設として、短期の入所期間(年度途中での措置変更や1年未満での家庭復帰等)であっても、できる限り良好な家庭的環境を整え、高機能化された養育(トラウマインフォームドケア研修などによる支援スキルアップ)や保護者等への支援及び里親や在宅家庭への支援等多機能化を図っています。入所する子どもの権利擁護のため、日常的な支援体制のチェック機能を果たすこと、また、子どもアドボケイトの年3回の受け入れにより、子どもの意見・意向表明の支援を行っています。施設出身者のアフターケアについて、関係機関と連携し支援を継続しています。地域支援として、大分市・由布市を中心に、子育て支援事業、子育て短期支援事業の利用件数の増加が来ています。年度末には定員 24 名に対し、現員 13 名となっていますが、令和8年度 4 月以降 8 名の入所をもって 21 名の現員となっています。しかし、短期の入所期間のケースは多く変動があるのが現状です。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り多様な働き方を推進する。

実施施策	各種休日の取得しやすい労働環境（達成率 90％）
現状と課題	年次有給休暇の計画的取得は、可能となってきたが、自主的な取得計画や申出は出来ていない。
取組の方向性	相互に声かけし、自主的に、個々の生活スタイルに合った休暇の取得をしやすい環境づくりを行う。
取組の成果	年次有給休暇と共に育児目的休暇・子の看護休暇の取得の併用を推進し積極的にかつようできている。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する

実施施策	園内研修の充実 （達成率 90％）
現状と課題	研修委員を中心に園内研修の年間計画を立て、毎月様々なテーマの研修を実施している。
取組の方向性	トラウマインフォームドケア等マニュアル化できる支援方法を学び、職員個々の支援の質の向上とチームケアに繋げる。
取組の成果	児童相談所と連携しトラウマインフォームドケア研修の実施や心理士が研修担当を担い、多岐に渡ったテーマの毎月の園内研修を実施した。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	互いに助け合い高め合う風土づくり（達成率 60％）
現状と課題	自身の業務遂行に意識が偏り、全体の業務を共有して効率的に進める事ができていない。
取組の方向性	常に情報交換を行い、業務内容を共有することで、互いに助け合い、全体の業務を効率的に質の高いものにしていく。
取組の成果	ユニットリーダー・主任を中心に、情報交換を行い、業務内容を朝・昼礼やラインワークス等で共有することで、全体の業務の効率化を進めた。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	効率的に業務遂行し、個々の生活に沿った各種休暇の取得を推進する。（達成率 90％）
現状と課題	業務の優先順位の組み立てや時間配分について、計画に

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域の子育て支援の拠点を目指す（達成率 70％）
現状と課題	由布市の受託にて要支援児童等見守り強化事業及びファミリーサポートセンター事業を実施している。
取組の方向性	由布市こども家庭支援センターと連携し、地域の子育て支援の新たな事業の取り組みを行っていく。
取組の成果	要支援児童等見守り強化事業では回を重ねるごとに利用者との関係性が増すことを実感し、ファミリーサポートセンター事業では、由布市と連携して広報活動の実施ができた。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	入所定員を満たすこと、また、ショートステイ利用拡充を行う。（達成率 70％）
現状と課題	入所児童減員の現状があり、短期の入所期間での家庭復帰等のケースが増加傾向にある。
取組の方向性	入所児童を確保すること、また、ショートステイ受け入れ体制の改善により、利用件数を伸ばす。
取組の成果	年度末には定員 24 名に対し、現員 13 名となっているが、令和 8 年度 4 月以降 8 名の入所をもって 21 名の現員となっている。ショートステイ利用者はリピーターが増えていることで利用率は上がっている。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	施設整備について見通しを立てて進めていく (達成率 80％)
現状と課題	施設外周の整備や内部の修繕など進める必要がある。
取組の方向性	児童の生活環境を整えるための施設整備について、見通しを立てて計画し、それに伴う収入確保のため、入所児童及びショートステイ利用者の確保を進め、収支のバランスを追求していく。
取組の成果	児童の生活環境を整えるための施設整備について、見通しを立てて計画し、それに伴う収入確保のため、入所児童及びショートステイ利用者の確保を進め、収支のバランスを追求していく。

	曖昧な面が多く見られることにより、休暇取得を計画する余裕がもてない傾向にある。
取組の方向性	チームケアのもと、職員全体での協力体制を作ること、より効率的に業務に取り組み、個々の生活に沿った休暇の取得を躊躇なく行える周囲のフォロー体制も構築していく。
取組の成果	チームケアのもと、職員全体での協力体制を作って効率的に業務に取り組み、互いに声を掛け合って個々の生活に沿った休暇の取得を行い、周囲のフォローする意識もできていた。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	子どもの権利擁護と意見・意向表明支援の充実 (達成率 60%)
現状と課題	子ども一人ひとりと向き合う支援体制と関係性の構築を意識して支援している。意見・意向表明支援として、子どもアドボケイトの受け入れを行い連携に努めている。
取組の方向性	児童一人ひとりととの関係性をより深く築くことを大切に支援し、子どもの意見・意向表明支援として、子どもアドボケイトの積極的受け入れと連携を深め、支援の充実を図る。
取組の成果	担当を中心に児童一人ひとりととの会話の時間を大切にして、関係性を深めることに努めていた。子どもの意見・意向表明支援として、子どもアドボケイトの年 3 回の受け入れを実施している。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	法人内施設間協力のもとでの防災・防犯対策 (達成率 60%)
現状と課題	法人内施設間の防災組織体制づくり・合同訓練の実施に取り組んでいる。
取組の方向性	改善を繰り返しながら、法人内施設間防災組織を整備していく。
取組の成果	法人内施設間防災組織に加え、地域と連携した防災訓練の実施ができた。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	事業計画に対する目標設定（達成率 65%）
現状と課題	限られた人員の中で目標達成のために組織としてどのように動くべきか、一丸となる意識が不足している。
取組の方向性	限られた人員の中で満足の得られる支援体制をつくることやショートステイの受け入れ、また、地域の子育て支援などの多機能化の取り組みに対して、個々の目標をもって進めていく。
取組の成果	限られた人員の中で満足の得られる支援体制をつくるために、ショートステイの受け入れ、また、地域の子育て支援などの各分野がそれぞれ効率よくの取り組めるよう個々の動きを確認しながら取り組んだ。

3 実績利用率 (%)

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率/ 月
施設入所事業	24名	71%	71%	67%	63%	63%	67%	67%	63%	63%	63%	71%	71%	66.7%
子育て支援短期利用事業	6名	4%	6%	6%	16%	4%	7%	3%	4%	8%	11%	7%	15%	7.6%

4 固定資産物品購入物 (単位: 千円)

名 称	購入業者	執行額	購入日
構築物 グラウンドフェンス工事	(有)梶原工業	2,400	令和8年1月16日
構築物 アスファルト工事	(株)日野建設工業	1,496	令和8年8月7日

5 修繕実施状況(大規模修繕を除く) (単位: 千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
無し			

6 大規模修繕状況 (単位: 千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
無し			